

故 村 山 祐 太 郎 氏

(明治38年9月10日～平成2年9月15日)



■ 略 歴

明治38年 9月 天童町に生まれる
大正12年 3月 久松商業学校(夜間)卒業
昭和13年 5月 鈴木金属工業株式会社設立、専務取締役
昭和22年 8月 鈴木金属工業株式会社取締役社長
昭和24年10月 三和油脂株式会社取締役社長
昭和34年 7月 三和油脂株式会社取締役会長
昭和51年 東京北ロータリークラブ会長
昭和55年12月 通商産業省中小企業経営委員
昭和60年 5月 東京都警察懇話会副会長
昭和62年11月 東京商工会議所名誉議員
昭和62年 4月 スパンクリート製造株式会社取締役会長
昭和62年 6月 鈴木金属工業株式会社終身名誉顧問

■ 受 賞 歴

紺綬褒章(昭和32年2回、昭和36年)
藍綬褒章(昭和51年)警察協力賞(昭和61年)
勲四等瑞宝章(昭和62年)

事 績 (称号贈呈時点のものです。)

村山祐太郎氏は、鈴木金属工業株式会社名誉顧問、スパンクリート製造株式会社取締役社長の要職を歴任され、また通商産業省の中小企業経営委員として、自社の経営のみならず、企業の育成指導に尽力された。

氏は、若干13歳で単身上京し、苦学を重ねる中で出会ったピアノ線への着眼から、実業家への第一歩を踏み出した。今や、氏の会社は世界に市場を持つに至っているが、その間、故郷天童の発展に対しても常に目を向けられ、昭和24年には三和油脂株式会社を創設された。

氏の実業家としての大成は、決して一朝一夕で成ったものではなく、「誠和」の精神と努力によって、積み上げられた成果であり、まさに“努力の人”の形容にふさわしい。会社経営のかたわら、氏は青少年の健全育成には殊のほか力を入れられ、東京都警察懇話会の副会長を務められた。本市においても、昭和50年代には、小・中学校での講演や、氏の著書を全児童、生徒に寄贈されるなど、青少年への暖かい励ましをいただいた。

また、本市の美術館建設にあたり、氏は、長年収蔵された貴重な、氏にとってはかけがえのないコレクションの中から、熊谷守一作品24点をはじめ、多数の美術品、資料を本市美術館に寄贈され、展観事業の充実に大きな貢献をされた。

さらに氏は、これまで紺綬褒章3回、藍綬褒章、警察協力賞、そして勲四等瑞宝章をそれぞれ受賞されるなど、人格、実績全てにおいて名実共に天童市民の等しく誇りとされる人物である。